エコアクション２１

環境経営レポート

（対象期間：令和２年１０月～令和３年９月）

附田建設株式会社

初版作成　　発行日　平成２５年１２月３日
更新版作成　発行日　令和３年１０月２２日

目　次

表　紙　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

目　次　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

１　ご挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

２　環境経営方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

３　組織の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

４　実施体制図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

５　環境経営目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

６　環境経営計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

７　環境経営計画の取組結果とその評価　・・・・・・・・・１１

８　次年度の取組内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

９　環境関連法規等の遵守状況　・・・・・・・・・・・・・１４

10　代表者による全体評価と見直し結果　・・・・・・・・・１４

11　活動状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

ご　挨　拶

附田建設株式会社は、青森県の六ヶ所村に本社を置く地域密着型の企業です。
現在、土木建築工事を主に青森県を拠点に東北各地での事業展開を図っております。また、災害時におけるインフラの早期復旧を目的とした、災害に強い企業作りを推進してまいります。
日常の業務だけでなく、環境保全活動、ボランティア活動を通じ、地域住民や関係機関と交流を重ね社会貢献を図っていきます。

環　境　経　営　方　針

１　基本経営理念

私たちは、「お客様の笑顔が見えるモノづくり」を企業理念に、自然環境に配慮した事業展開を実施しております。今後も新機材への転換等により、持続性のある環境負荷低減を推進していきます。

２　環境経営への行動指針

（１）環境マネージメントシステムを確立・運用し継続的に改善します。

（２）環境への取組ついて以下の事項を重点施策として継続的に実施します。

ア　電力及び LPG の削減に力を入れます。
イ　業務車両のエコドライブ実践により燃料の削減に努めます。
ウ　廃棄物排出量の削減とリサイクル率の向上に努めます。
エ　水の効率的な利用により節水を励行します。
オ　化学物質の有無に関わらず従業員への教育を徹底します。
カ　事務用品等はエコマーク商品を積極的に購入します。

（３）工事現場におけるゴミの分別を徹底します。

（４）地域の環境ボランティア活動等に積極的に参加します。

（５）事業活動に関する環境関連法規等を遵守します。

（６）環境に配慮した機器を導入し作業の効率及び軽減を図ります。

この環境経営方針は、社員全員に徹底するとともに、広く一般へ公開します。

作成日：令和２年４月１日

附田建設株式会社
代表取締役社長　**蘓武　昭男**

組織の概要

１　事業所名

附田建設株式会社

２　代表者名

代表取締役社長　　藤武　昭男

３　所在地

本　社　　青森県上北郡六ヶ所村尾駮字二又２３－２

資材置き場・倉庫　　青森県上北郡六ヶ所村尾駮字二又８６―２０

４　環境管理責任者等氏名及び連絡先

環境管理責任者　　安全課長　　矢岡　哲章

担　　当　　者　　事務局　　赤川　　茂

同　　松崎　祐一

TEL　：０１７５－７２－４１１１

FAX　：０１７５－７２－２５２２

E-MAIL：shigeru_akagawa@tkd-grp.co.jp

５　事業活動の内容

総合建設業　　土木、建築、大工、左官、とび・土工、石工、屋根、電気、管、タイル・れんが・ブロック、鋼構造物、鉄筋、舗装、しゅんせつ、板金、ガラス、塗装、防水、内装仕上げ、熱絶縁、造園、建具、解体、機械器具設置

資本金　６０００万円

６　事業規模

売上高　４,０４９,０００（単位：千円）

従業員　８４名

７　対象範囲（認証、登録範囲）

附田建設株式会社　全社を範囲とする。

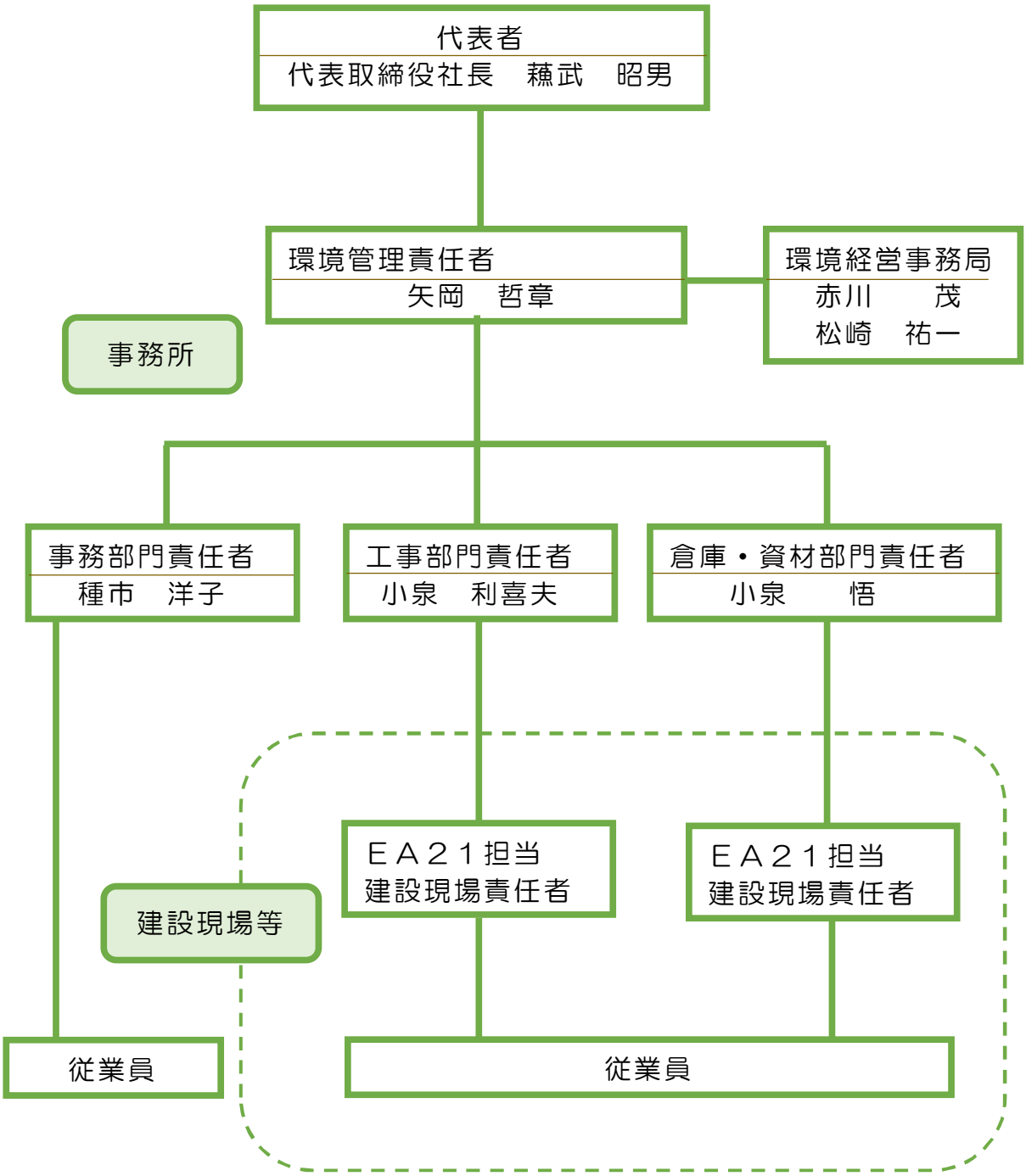
場所：本社、倉庫、資材置場及び工事現場

人員：全従業員

８　事業年度

１０月１日～翌年９月３０日まで

実　施　体　制　図


代表者
代表取締役社長　蘓武　昭男
環境管理責任者
矢岡　哲章
環境経営事務局
赤川　茂
松崎　祐一
事務所
事務部門責任者
種市　洋子
工事部門責任者
小泉　利喜夫
倉庫・資材部門責任者
小泉　悟
ＥＡ２１担当
建設現場責任者
ＥＡ２１担当
建設現場責任者
建設現場等
従業員
従業員

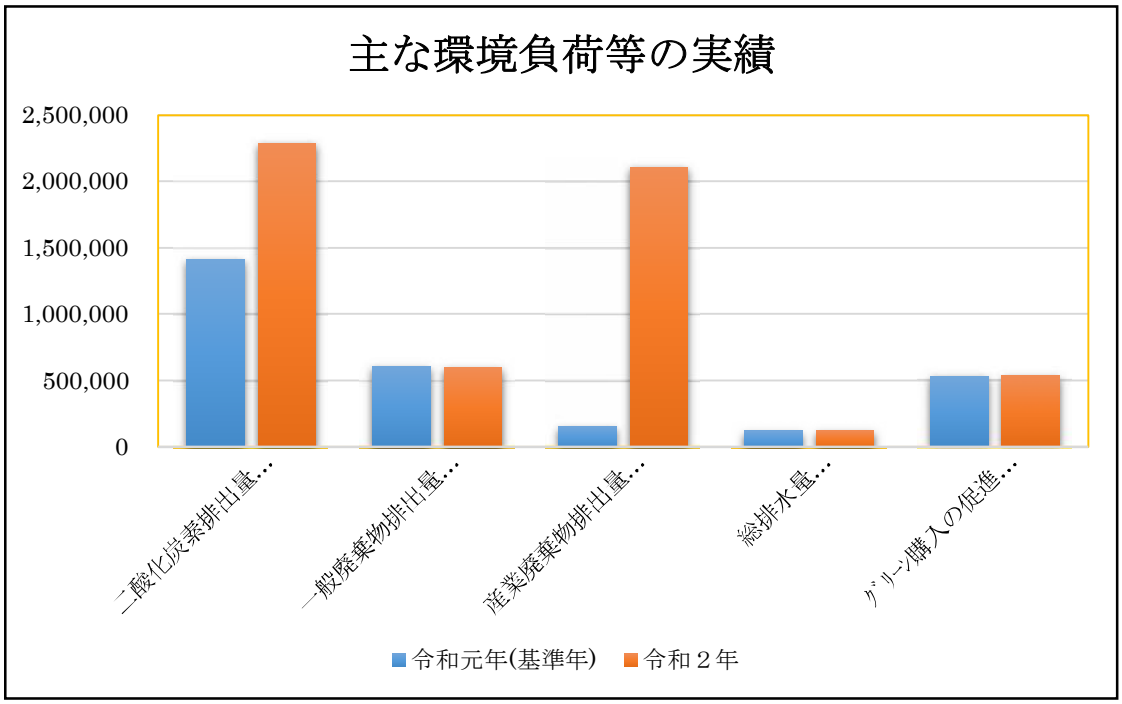
環　境　経　営　目　標

1　主な環境負荷等の実績

（1）　主な環境負荷の実績

項　目	単　位	R１年度（基準年）	R２年度
二酸化炭素排出量	Kg-CO２／年	1,429,502	2,288,739
一般廃棄物排出量	Kg／年	608	600
産業廃棄物排出量	t ／年	15.60	306.12
総排水量	m3／年	119	123
ｸﾞﾘｰﾝ購入の促進	円／年	531,652	417,538

図１

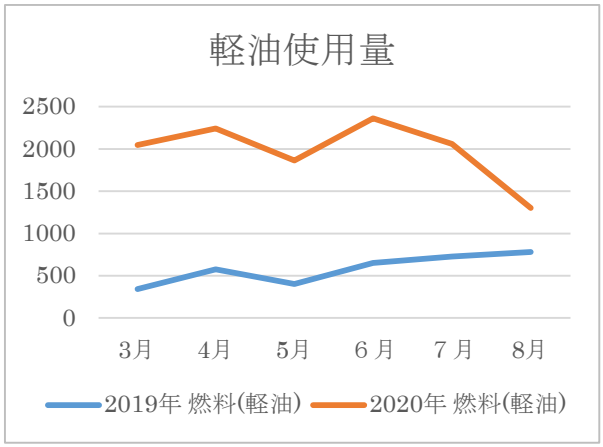


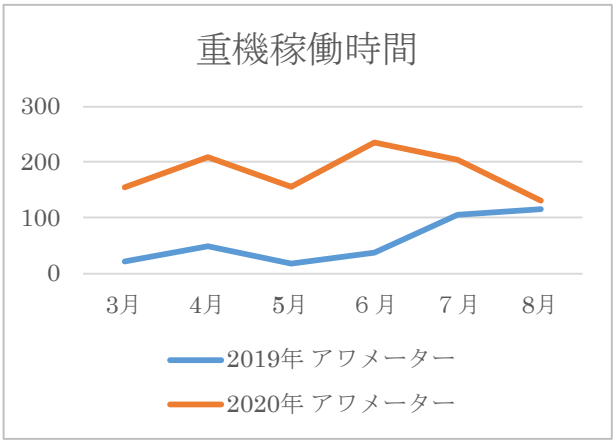
（２）　重機、車両の環境負荷実績

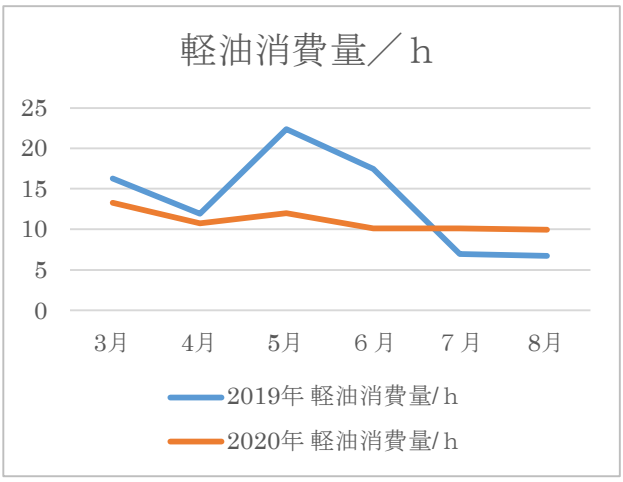
ア　重機（ＨＢ２０５）

	項　目	３月	４月	５月	６月	７月	８月	計
2019 年	燃料（軽油）	341.7	570.1	403.2	646.5	725.9	779	3466.4
2020 年	燃料（軽油）	2045.5	2239	1864.6	2365.4	2059.5	1306.5	11880.5
	項　目	３月	４月	５月	６月	７月	８月	計
2019 年	ｱﾜﾒｰﾀｰ	21	48	18	37	105	116	345
2020 年	ｱﾜﾒｰﾀｰ	154	208	155	235	204	131	1087
	項　目	３月	４月	５月	６月	７月	８月	計
2019 年	軽油消費量/h	16.27	11.88	22.4	17.47	6.91	6.72	10.05
2020 年	軽油消費量/h	13.28	10.76	12.03	10.07	10.1	9.97	10.93

※ 検証期間６ヵ月



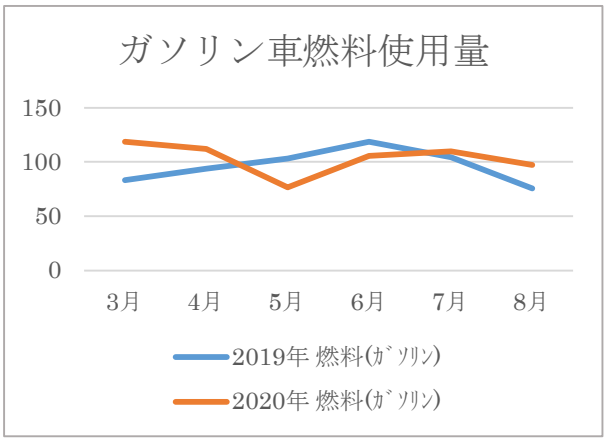


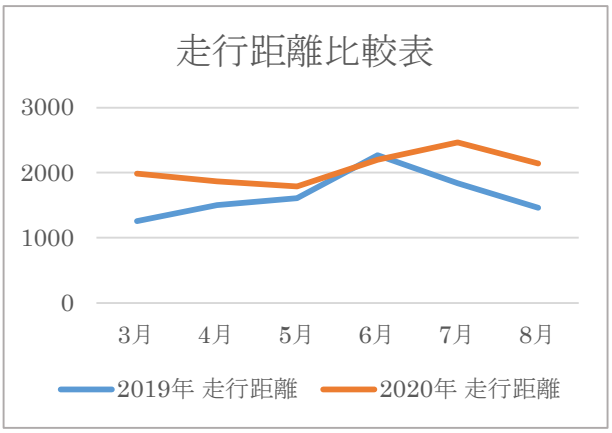


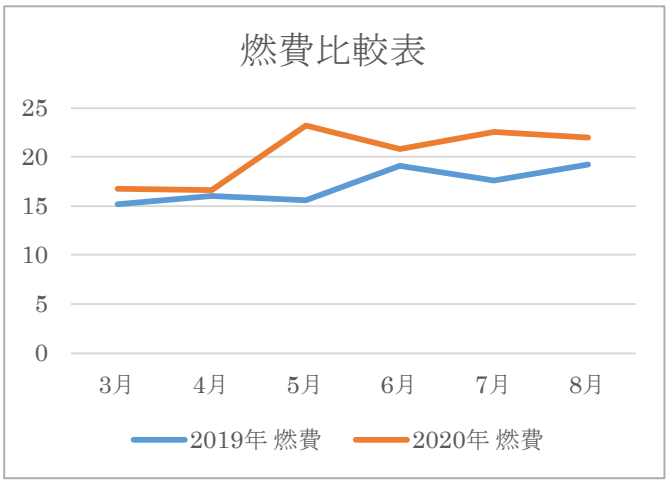
イ　ガソリン車(巡回車両)

	項　目	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	計
2019 年	燃料	827	935	1030	1187	1043	758	5780
	走行距離	1257	1498	1605	2268	1836	1457	9921
	燃費	152	160. 2	155. 8	191. 1	176	192. 2	171. 60
	項　目	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	計
2020 年	燃料	1189	1120	770	1055	1097	974	6205
	走行距離	1987	1865	1788	2195	2471	2139	12445
	燃費	167. 1	166. 5	232. 2	208. 1	225. 3	219. 6	200. 60

※検証期間６ヵ月







２　環境経営目標の設定

当社では、令和１年度を基準年度として中長期及び単年度の環境経営目標を、それぞれ表２のとおり設定し、環境経営活動に取組んでおります。

表２　環境目標

項　目	基準年度	単年度目標（削減率）				中長期目標
	１年度	２年度	３年度	４年度	５年度	
二酸化炭素排出量	1,415,211 kg -co2	１％減	２％減	３％減	３％減	３％減
一般廃棄物排出量	608kg	１％減	２％減	３％減	３％減	3％減
産業廃棄物排出量	15.60 t	0.5％減	1％減	1.5％減	1.5％減	1.5％減
再資源化率	90.6%	0.5％増	1％増	1.5％増	1.5％増	1.5％増
総排水量	119m3	0.5％減	１％減	1.5％減	1.5％減	1.5％減
グリーン購入	53.1 万円	1％増	2％増	3％増	3％増	3％増

３　環境経営目標の実績

当社では、環境経営目標の達成状況の確認・評価を行いました。

車両及び重機の増加により二酸化炭素の排出量が多くなりましたが、「主な環境負荷等の実績」で示したように、車両及び重機を抽出し検証を続けた結果、昨年よりも効率良く稼働させることができました。

工事現場の増加により、二酸化炭素及び産業廃棄物排出量は増加しましたが、再資源化率を目標に達成できたことが唯一の成果といえます。

表３　当該年度の環境経営目標の達成状況等

項　目	単位	基準値	当該年度			環境目標達成状況
			削減・増加率(%)	目標値	実績値	
二酸化炭素	kg-co2	1,429,501	1％減	1,415,206	2,288,739	未達成
一般廃棄物排出量	kg	608	1％減	602	600	達成
産業廃棄物排出量	t	15.6	0.5％減	15.5	211.08	未達成
再資源化率	%	89.9	0.5％増	90	99.4	達成
総排水量	m3	119	0.5％減	118	123	未達成
グリーン購入	万円	53.1	1％増	54	41.7	未達成

注：購入電力の排出係数は平成 30 年度実績(R2.1.7 環境省・経済産業省公表)東北電力㈱の調整後排出係数、事業者全体数値 0.523 を使用しています。

環境経営計画

取組内容	活　動　計　画
電気使用量の削減	冷暖房機の設定温度（夏 27℃、冬 21℃）で運用
	クールビズ、ウォームビズを推奨
	無人となるエリアの照明を消灯
	パソコンの省エネ設定を実施
	退社時にパソコン、周辺ＯＡ機器の電源をオフ
	照明等のスイッチに節電表示を実施
ガソリン・軽油の燃費向上	急発進、急加速をなくし、エコドライブの励行
	アイドリングストップの徹底
	不要な荷物、工具の荷積み禁止
	タイヤの空気圧等の車両点検、整備を実施
	積極的なエンジンブレーキの使用
灯油使用量の削減	不在時の暖房器具の確実な消火
ガス使用量の削減	ガスコンロに節約の表示をして削減を促す
	ガス給湯器に節約の表示をして削減を促す
一般廃棄物の削減	ゴミの分別でリサイクル化を徹底
	キャップ、プルタブの収集活動への協力
	両面コピーの推進（掲示を含む。）
	コピー用紙の裏紙利用促進のための掲示
	プレビューの活用により印刷ミスを防止
建設廃棄物の削減	マニフェストに基づいた適正な処理
	材料発注量の無駄をなくす
	分別の徹底で産業廃棄物の再資源化率を向上
水資源の節減	節水のための表示の実施
	トイレの水使用削減を工夫する
	水の出しっぱなしを禁止
環境保全活動	化学物質の最小限の使用及び適正な管理
	環境重視型製品の使用
	環境ボランティア活動への積極的な参加
グリーン製品の推進	積極的なリサイクル製品の購入

	環境に配慮した製品の購入及び交換

環境経営計画の取組結果とその評価

１　本社事務所

方針	環境経営目標項目	取　組　内　容	実施状況評価	取　組　結　果
二酸化炭素排出量抑制	電力の二酸化炭素削減	・空調の適正化（冷房 27℃暖房 21℃） ・使用していない部屋の空調停止 ・ウォームビズで暖房の使用を抑える。 ・終業 30 分前に熱源機を停止し装置内の熱を利用する。 ・照明は昼休み、残業時等は消灯 ・使用頻度が低いトイレ等の照明は、普段は消灯し、必要時のみ点灯する。 ・ＯＡ機器を省電力設定にする。	○	冬期間における電力消費が増加したが、他の月での節電が功を奏した。
	車両用燃料等の二酸化炭素削減	・ふんわりアクセル「ｅ」スタート ・早めのアクセルオフ ・不要な荷物は積まない。 ・タイヤの空気圧をチェック ・アイドリングストップの実施	○	ガソリン車は増加したが、低燃車を購入した為、ガソリンの消費が抑えられた。
	LPG 等の二酸化炭素削減	・給湯器の使用を食器洗いに限定	×	年間を通じて平均的な使用となった。
廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減	・商品購入時、簡易包装を優先する。 ・使用済みコピーの裏側を使用する。 ・ＯＡ機器の故障時は、修繕による長期使用に努める。 ・資料配布時は、必要部数となるよう事前確認を徹底する。	○	ゴミの分別を進めた結果、目標の達成に至りました。
	再資源化対策の推進	・コピー機等のトナーカートリッジのリサイクルを図る。 ・紙、金属缶等の分別回収ボックスの配置により、リサイクルを徹底する。 ・ペットボトルのキャップやプルタブを積極的に収集する。 ・ファイル等は再利用できる事務用品を使用する。	○	トナーカートリッジは全てリサイクルに出しています。 工事現場から戻ってきたファイルは、中身を整理し再利用に心掛けています。
節水・排水の適正管理		・節水の励行を呼びかける。 ・水道管からの漏水を定期的に点検 ・有害物質等の混入防止 ・排水口の定期的な清掃を実施	×	初期の使用量が増加した結果、目標達成には至りませんでした。
グリーン購入		・環境ラベル認定製品を優先購入 ・省エネ基準適合製品の購入 ・製品・サービス等の積極的活用	○	計画的な購入により目標を達成できました。

２　建設現場等

方針	環境経営目標項目	取　組　内　容	実施状況評価	取　組　結　果
二酸化炭素排出量抑制	電力の二酸化炭素削減	・既存の工法を変更又は見直し、エネルギー消費を抑える。 ・規模に応じた建設機械等を選択し、効率の良い作業に心がける。 ・昼休み、残業等で不要な照明を発見した場合は消灯に心がける。	×	冬季の電力は昨年度の状況を踏まえ、改善することができましたが、工事の増加により、電力使用量が増えました。
	建設機械・車両用燃料等の二酸化炭素削減	・建設機械の過積載が無いようチェックを徹底する。 ・資材運搬経路の検討により、燃費の削減に努める。 ・タイヤ空気圧の適正維持を図る。 ・建設機械等のアイドリングストップ及び省エネ運転を推進する。	×	重機使用時間及び軽油量が増えましたが、現場で使用している重機の効率化を図ったため、各重機の軽油使用量を抑えることができました。
	灯油･LPG 等の二酸化炭素削減	・アクティビティやアロー、フロート等を見直し、施工期間を短縮する。 ・工程表の事前確認により、重機の効率的な運用に心がける。	○	冬季における灯油使用を抑えることができました。
廃棄物排出量削減	産業廃棄物の発生抑制	・建設資材発注時に数量を二重チェックし、廃棄を抑制する。 ・施工時の温度影響による品質劣化を防ぐため温度管理を徹底する。 ・商品購入時は、簡易包装の製品を優先及び業者に依頼する。 ・在庫管理の徹底により、在庫品を減らす。	×	工事現場が増えたことで産業廃棄物が大量に発生しましたが、適正な処理により、再資源化を図っています。
	再資源化対策の推進	・建設現場から出る廃棄物の分別を徹底しリユース、リサイクルに努める。 ・紙、金属缶等の分別回収ボックスを配置することで、再資源化を図る。 ・建設副産物の再利用率向上のため創意工夫をする。	○	11 月、4 月と産業廃棄物の排出量が多く出たが、分別の徹底により、再資源化率が向上しました。
	産業廃棄物の適正処理	・廃棄物管理票を使い適正な廃棄物処理を行う。 ・廃棄物を運搬する際に過積載が無いように管理、徹底する。	○	許可事業者への委託及びマニフェストの管理保管を定期的に点検しています。
節水・排水の適正管理		・建設機械を洗車する際、泥等を事前に落とし節水に心がける。 ・洗車等に使用するホースの先にストッパーを付ける。 ・施工方法等を見直し、水質汚濁の少ない方法に変更する。	○	工事現場での使用実績はありませんでした。 重機の油漏れ対策については、装備を設置し対応しています。

	・河川、海等の近くでの作業は、油吸収マット、中和剤の備えを徹底する。 ・排水路に沈殿槽を設置し、排水汚濁を緩和する。		
騒音・振動防止	・低騒音、低振動型建設機械の使用 ・防音、防振設備の設置、管理により防止する。	○	苦情等はありませんでした。
化学物質の管理推進	・建設現場で使用する化学物質は、流出防止対策を徹底する。 ・化学物質の使用は最小限の使用とする。 ・保管は場所を決め、在庫量を確認する。		該当なし。
グリーン購入	・環境ラベル認定製品を優先的に購入している。 ・省エネ基準適合製品を購入する。	×	現場での購入金額は低いですが、グリーン購入率は70%を超えました。

※　○：月次達成 50%以上＋年間達成、△：月次達成 50%未満＋年間達成
　　×：年間目標未達成

次年度の取組内容

１　二酸化炭素排出量の削減

- 車両及び重機購入時は、省エネタイプを推奨する。
- エコドライブ推進運動を通じ、燃料の消費を抑える。

２　産業廃棄物の排出量削減

- 詳細まで分別することで、再利用を拡充させる。

３　節水・排水対策

- ポスターやステッカーによる節水啓蒙活動を継続する。

４　グリーン購入

- グリーン製品を積極的に購入する。

５　地域貢献、その他の取組み

- 産業廃棄物撲滅キャンペーンに積極的に参加する。
- 地域のボランティア活動に積極的に参加する。
- 環境緊急事態発生時への対処を段階的に訓練する。
- 環境に優しい材料の使用を積極的に取り入れる。

環境関連法規等の遵守状況

１　環境関連法規・条例等の遵守状況の確認・評価結果

環境法規制等の名称	要　求　事　項	遵守状況の確認	判定
建設リサイクル法	対象建設工事の届出	書類確認	○
	発注者への書面による計画等の説明及び完了報告	書類確認	○
廃棄物処理法	産廃収集運搬・処理業者との契約、許可証等の保管	書類確認	○
	産業廃棄物管理票の管理義務	書類確認	○
	自社による運搬時の表示、書類携行	車両確認	○
グリーン購入法	環境に配慮した物品等の調達	書類確認	○
	省エネルギー基準適合製品の購入	順次購入	○
	再生材料、間伐材等の製品購入	順次購入	○
オフロード法	特定特殊自動車排出ガスの抑制措置	現場、書類確認	○
消防法	危険物保管の指定数量以上の許可	書類確認	○
	少量危険物及び消防阻害物質の届出	書類確認	○
	貯蔵所や取扱所の基準遵守	現場、書類確認	○

２　環境関連法規制等の違反・訴訟等の有無

環境関連法規制等の取りまとめ及び遵守状況結果を用いて、環境管理責任者が確認した結果、違反はありませんでした。

また、関係当局からの違反等の指摘、住民からの苦情、訴訟等についてもありません。

代表者による全体評価と見直し結果

今回、事業面における新型ウイルスの影響は少なく、共同体として協力会社との連携や全従業員の健康管理の掌握に細心の注意を払うことができました。

幸いにも弊社より、感染者を出すことが無く、今期を閉めることができたことは、従業員並びに関係各社のご協力によるところが大きいところですが、地球の温暖化は待ってくれません。二酸化炭素の温室効果ガス排出量を減少させ最後には実質ゼロにする取組を、今後も継続していく所存です。

出来る事をコツコツと無理をしないのが長続きの秘訣と考え、省エネへの取組を継続していきましょう。

活　動　状　況

１　省エネへの取組み（エコドライブ）

２　地域奉仕活動への取組み（海の日清掃活動：Ｒ３．７．９）

３　緊急事態への取組み（消火訓練：Ｒ３．８．４）